

明 細 書

順序表示付与方法

技術分野

本願発明は、年代、順路、重要度、作業進捗度、あるいは距離進行度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件において、各個別順序付け部位が一連の順序のどの位置にあるのかを解り易くするための順序表示付与方法に関するものである。

背景技術

一連の順序付けができる順序付け対象物件として、例えば、年代（時代）順に記述された歴史書や、各種の展示ブースを集めた展示会場や、順路のある観光地（公園等）や、美術館等における等級（重要度）の異なる各種展示品からなる展示品群や、工場において複数の作業工程を行って製品を製造する場合の製造ラインや、トンネルあるいはスキー場のゲレンデ等の長さがある施設、等の多岐に亘るものがある。

歴史書は、一般に年代（時代）の古い方から順に掲載されており、且つ各時代ごとにまとめて記述されている。しかし、従来の歴史書では、各時代の順序あるいは出来事と時代との関連性等を解り易くするための工夫が乏しかった。

各種の展示ブースを集めた展示会場や美術館や観光地（公園）等では、各ブースや展示品の観覧順序が決まっていると効率よく巡回できる。尚、美術館や観光地（公園）等では、順路を指示していることもあるが、これは単に順路を示すだけで、現在位置が全順路のどのあたりになるのか等を示すものではない。

2

美術館等における展示品は、国宝を頂点にして文化的価値が異なる各種のものがある。例えば、美術館等における展示品には、国宝、重要文化財、県宝、県指定の有形文化財、市町村指定の有形文化財、県指定の伝統工芸品、その他（指定なし）、等がある。しかし、これらの展示品に付される文化財の種類等については、その重要度についてよく理解できていない人もいる。特に、言語の解らない異国人には、文化財の種類の違いを理解するのは難しい。

工場の製造ラインにおいては、各種作業工程を順に行って製品を製造するが、例えば新入社員では、作業順序（次の作業場所）が十分に把握できないことがあったり、又は現作業工程が全作業工程中のどの順位になるのか把握できないことがある。

長いトンネルでは、トンネル途中を進行中に出口までどの程度の距離が残っているのかが解らない。又、スキーのゲレンデでも、全長に対して現在位置が始点からどれだけ進行（滑降）した位置か（あとどのくらいの距離が残っているのか）が解らない。

尚、本願発明に関連する技術の一例として、例えば書籍において、各セクションごとにそれぞれ別の着色表示をしたものがあるが、その外に本願発明に対比するような公知文献は特に見当たらない。

ところで、上記のような何らかの順序付けができる順序付け対象物件については、それぞれ適当な順序付けを行うことが便利であるが、順序付けとして例えば数字で順位を表示したものでは、末尾の番号が解らないと当該個別順序付け部位が全体のどの位置（重要度ランクを含む）にあるか判別できない。

そこで、本願発明は、各種の順序付けができる順序付け対象物件に対して、各個別順序付け部位がどの位置（ランク）にあるか容易に確認できるようにした、順序表示付与方法を提供することを目的としている。

発明の開示

本願発明は、上記課題を解決するための手段として次の構成を有している。

本願発明は、年代、順路、重要度、作業進捗度、あるいは距離進行度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位を、色により識別し得るようにした順序表示付与方法を対象にしている。

順序付けができる順序付け対象物件としては、例えば、年代（時代）順に記述された歴史書や、各種の展示ブースを集めた展示会場や、美術館等における等級（重要度ランク）の異なる各種展示品からなる展示品群や、工場において複数の作業工程を行って製品を製造する場合の製造ラインや、トンネルあるいはスキー場のゲレンデ等の長さがある施設、等の多岐に亘るものがある。

そして、本願発明では、それらの各種の順序付け対象物件における個別順序付け部位に対して、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、該個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示するものである。

虹色は、「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色であり、この虹色（7色）の種類及び色の順位（並び）は万国共通で認知されている。そして、この虹色を、年代、順路、重要度、作業進捗度、あるいは距離進行度等の一連の順序付け対象物件の各個別順序付け部位に対して、順序付け表示として利用すると、各個別順序付け部位が全体のどの位置（重要度ランクを含む）にあるかを一目で判別できる。

虹色の7色の順序付けは、「赤」が第1順位で、以下「紫」の第7順位まで順次割り当てる。尚、虹色は7色であるが、個別順序付け部位の個数（又はランク個数）が7個

を超えるときには、例えば虹色を構成する7色の各色に濃淡の差をつけて分割したり（2段階でも3段階でもよい）、あるいは各順位色（例えば「赤」と「橙」）の間のランクにその両方の色（例えば「赤・橙」）を半々に併記したりすることで、必要に応じて順位色の個数を増加させることができる。尚、順序付け個数が7個に満たない場合は、虹色の順位色の「赤」から順に割り当てていき、その残余の順位色（例えば「紫」）は不使用にする。

本願の順序表示付与方法の使用例として、例えば次のようなものがある。

例えば、歴史書は、一般に年代（時代）の古い方から順に掲載されている（例えば、古墳時代→飛鳥・奈良時代→平安時代→鎌倉時代→室町・安土桃山時代→江戸時代→近現代という順に掲載されている）。そして、歴史書においては、各時代ごとの各頁の適所（例えば紙面の縁）に、古い方から順に虹色の各順位色を割り当てて着色表示すると、その色を見ることで（同色か否かで）、各出来事が1つの時代の範囲のものかどうかの判別ができるとともに、虹色（7色）の中のどの順位色かによって当該時代が歴史全体の中のどの位置にあるかが解る。尚、書物によっては、セクションごとに色分け表示したものが見受けられるが、この種の色分け表示は1つのまとまり（セクション）を表示するのみで、本願が対象にしている個別順序付け部位の順序付け機能ではない。

又、各種の展示ブースを集めた展示会場や美術館や観光地（公園）等では、各ブースや展示品や名所等の観覧順序が決まっていると混雑しないで巡回できるが、会場に単に順路が表示されているだけでは、現在位置が全順路のどのあたりになるのか、あるいはあとどれくらい残っているのか等を知ることができない。そこで、観覧順路順にプレート等に虹色の各順位色を割り当てて着色表示すると、その色を見ることで現在位置が全順路のどのあたりになるのかが確認できる。尚、これらの案内パンフレットにも、順路

5

とともに順路の進行度合いに応じて虹色の順位色を割り当てて着色表示することもできる。

又、美術館等における展示品は、国宝を頂点にして文化的価値が異なる各種のものがある。例えば、美術館等における展示品には、国宝、重要文化財、県宝、県指定の有形文化財、市町村指定の有形文化財、県指定の伝統工芸品、その他（指定なし）、等がある。そして、このような順序付け（重要度付け）できる展示品については、それらの展示品の説明プレートに、当該展示品が属する順位に該当する虹色中の順位色を表示するとよい。例えば、展示品が国宝であれば第1順位色の「赤」、重要文化財であれば第2順位色の「橙」、県宝では第3順位色の「黄」というふうに、展示品の重要度ランクによって虹色中の順位色を付与すればよい。

又、工場の製造ラインにおいては、各種作業工程を順に行って製品を製造するが、作業工程順にプレート等に虹色の各順位色を割り当てて着色表示しておく、と、現在位置の順位色の次順位の色の標識を見つけることで間違わずに次の工程に移行させることができ、且つ現作業位置の標識の色を見ることで現在位置が全工程中のどのあたりの工程になるのかが一目で理解できる。

又、長いトンネルでは、トンネルの全長を7等分して入口側から虹色の各順位色を割り当てて、進行方向側の壁面に順次着色表示しておく、とよい。この場合は、トンネル途中を進行中に現在位置の壁面の「色」を確認することで、トンネル内の距離進行度（入口からどれだけ進んだか、あるいは出口までどれくらいあるか）が一目で解る。

又、スキーのゲレンデでも、コース全長を7等分して始点側から順に虹色の各順位色を割り当てて立て看板等の標識に着色表示し、その各標識をコース側方における始点から所定距離の各位置に設置する。この場合は、スキーヤーが現在位置の標識の色を見る

ことで、ゲレンデ全長のどのあたりを滑っているのか一目で解る。

このように、本願発明では、一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位に、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、各個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示するようにしているので、個別順序付け部位の色を見るだけで、一連の順序付け対象物件中における当該個別順序付け部位の位置（重要度ランクを含む）を明確に認識できる。又、虹色の各順位色（赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の順）は、言語が異なる異国人であっても万国共通のものであり、順序付け表示に虹色の順位色を使用すると、見る人に理解させ易いという効果がある。

図面の簡単な説明

第1図は、本願第1実施例の順序表示付与方法を示す説明図である。

第2図は、第1図の順序表示付与方法を具体化した歴史書の1つの頁の平面図である。

第3図は、本願第2実施例の順序表示付与方法を示す説明図である。

第4図は、第3図の順序表示付与方法を具体化した展示会場の平面図である。

第5図は、本願第3実施例の順序表示付与方法を示す説明図である。

第6図は、第5図の順序表示付与方法を具体化した展示品の正面図である。

発明を実施するための最良の形態

第1図～第6図を参照して、本願発明の順序表示付与方法の実施例を説明すると、第1図及び第2図には第1実施例、第3図及び第4図には第2実施例、第5図及び第6図

には第3実施例がそれぞれ示されている。尚、上記各実施例では、順序付け対象物件として、それぞれ次のものを採用している。即ち、第1図及び第2図の第1実施例では各時代ごとに記述されている歴史書を採用しており、第3図及び第4図の第2実施例では各展示ブースを集合させた展示会場を採用しており、第5図及び第6図の第3実施例では美術館等に展示されている展示品群を採用している。

第1図及び第2図の第1実施例

この第1実施例では、特許請求範囲における順序付け対象物件が歴史書であり、同じく特許請求範囲における個別順序付け部位が該歴史書における各時代（古墳時代～近現代）ごとの頁（例えば第2図）である。

そして、この第1実施例では、第1図に示すように虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色を「赤」から古い順の順位色3A～3Gとし、該各順位色3A～3Gを歴史書における各時代（古墳時代～近現代）ごとの記述部分に割り当ててそれぞれ適所に着色表示（第2図の符号3A部分）している。

この第1実施例では、各順位色3A～3Gは、第2図に例示するように各頁の紙面2の上縁部と外縁部とに跨がって細幅つつ着色表示している。尚、第2図の紙面2は、歴史書における時代的に最も古い古墳時代を記述したもので、着色部3Aの色は「赤」である。そして、この歴史書では、各時代の古い順に虹色の各順位色3A～3Gを割り当てている。即ち、第1図に示すように、古墳時代の記述頁には「赤」の着色3A、飛鳥・奈良時代の記述頁には「橙」の着色3B、平安時代の記述頁には「黄」の着色3C、鎌倉時代の記述頁には「緑」の着色3D、室町・安土桃山時代の記述頁には「青」の着色3E、江戸時代の記述頁には「藍」の着色3F、近現代の記述頁には「紫」の着色3Gをそれぞれ施す。尚、順序付け個数（区分けすべき年代）が7個を超えるときには、

例えば虹色の各色に濃薄の差をつけたり（２段階でも３段階でもよい）、あるいは各順位色（例えば「赤」と「橙」）の間の順位にその両方の色（例えば「赤・橙」）を半々に併記したりすること等で、順位色の個数を増加させることができる。尚、順序付け個数が７個に満たない場合は、虹色の順位色の「赤」から順に割り当てていき、その残余の順位色（例えば「紫」）は不使用にする。

又、紙面２に絵（第２図の符号４）を掲載している場合には、該絵４部分の適所（図示例では下辺）に、その絵が属している時代を表す順位色（第２図では「赤」）を着色表示（符号４a）しておく、該絵４を時代（古墳時代）に関連付けて学習（理解・記憶）することができる。

この第１実施例のものでは、虹色（赤・橙・黄・緑・青・藍・紫）の各順位色３A～３Gを歴史書の各時代ごとの記述頁に割り当ててそれぞれ着色表示しているが、このようにすると、歴史書の頁の着色表示の色を見ることで（同色か否かで）、各出来事が１つの時代の範囲のものかどうかの判別ができる。又、虹色（７色３A～３G）の中のどの順位色かによって、当該時代の古さが全体の中のどの位置にあるかを感覚的に理解できる。

尚、この第１実施例の場合には、この歴史書の目に付き易い場所に、時代の古い順に虹色の「赤」から順の各順位色３A～３Gを割り当てていること（例えば第１図の表示）を表示しておくといよい。

第３図及び第４図の第２実施例

この第２実施例では、第４図に示すように、特許請求範囲における順序付け対象物件が複数の展示ブースを集合させた展示会場５であり、同じく特許請求範囲における個別順序付け部位が該展示会場５における各展示ブース（第１ブース～第７ブース）６A～

6 Gである。尚、各展示ブースは、展示会場における入口側からの順路順に第1ブース6 A～第7ブース6 Gとしている。

そして、この第2実施例では、第3図に示すように虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の7色を「赤」から順の順位色3 A～3 Gとし、該各順位色3 A～3 Gを展示会場5内に設置される各展示ブース（第1ブース～第7ブース）6 A～6 Gに割り当ててそれぞれ展示ブースの適所（例えば立て看板等）に着色表示している。尚、展示ブースの個数が7個より多い場合は、上記第1実施例で記載したように、虹色の各順位色を濃薄分割する等の方法で順位色の個数を増加させることができ、他方、展示ブースの個数が7個未満の場合には、残余（不使用）の順位色（例えば「紫」）は使用しない。

この第2実施例では、各展示ブース6 A～6 Gに付与している虹色の各順位色3 A～3 Gによって、各展示ブースの観覧順序が解るとともに、現在居る位置の展示ブースの順位色を見ることによって現在位置が全順路のどのあたりにあるのかが理解できる。

尚、この第2実施例の場合には、展示会場5の入口付近の目に付き易い場所に、順路順の各展示ブース6 A～6 Gに虹色の「赤」から順の各順位色3 A～3 Gを割り当てていること（例えば第3図の表示）を表示しておくといよい。

第5図及び第6図の第3実施例

この第3実施例では、第6図に示すように、特許請求範囲における順序付け対象物件が美術館等における多数の展示品群であり、同じく特許請求範囲における個別順序付け部位が展示品群の各展示品7である。

美術館等に収蔵されている各種展示品7は、文化的価値（第5図に示す各種ランク）が異なっている。例えば、この種の展示品には、国宝、重要文化財、県宝、県指定の有形文化財、市町村指定の有形文化財、県指定の伝統工芸品、その他指定なし、等がある

。そして、このようなランク付け（重要度付け）できる各展示品7については、それらの展示品の説明プレート8等に、当該展示品が属するランクに該当する虹色中の順位色3A～3Gを表示するとよい。例えば、展示品が国宝（第1ランク）であれば第1順位色の「赤」、重要文化財（第2ランク）であれば第2順位色の「橙」（第6図の例）、県宝（第3ランク）であれば第3順位色の「黄」というふうに、展示品の重要度ランクによって虹色中の該当する順位色を付与すればよい。

この第3実施例のものでは、展示品7に付与されている順位色（3A～3G）の色を見ることで、文書表示とは別に当該展示品7の重要度ランクが一目で理解でき、且つその重要度ランクが全ランク中のどの程度の高さにあるかを瞬時に理解できる。このことは、特に説明文を読めない人（例えば異国人）や文意（文化財種類の等級等）が解らない人でも、展示品7における順位色（3A～3G）の色を知ること、当該展示品の重要度ランクを理解できる。

尚、この第3実施例の場合にも、美術館の入口付近の目に付き易い場所に、各展示品7の説明プレート8等に重要度ランクを示す虹色のうちのいずれかの順位色（3A～3G）を割り当てていること（例えば第5図の表示）を表示しておくといよい。

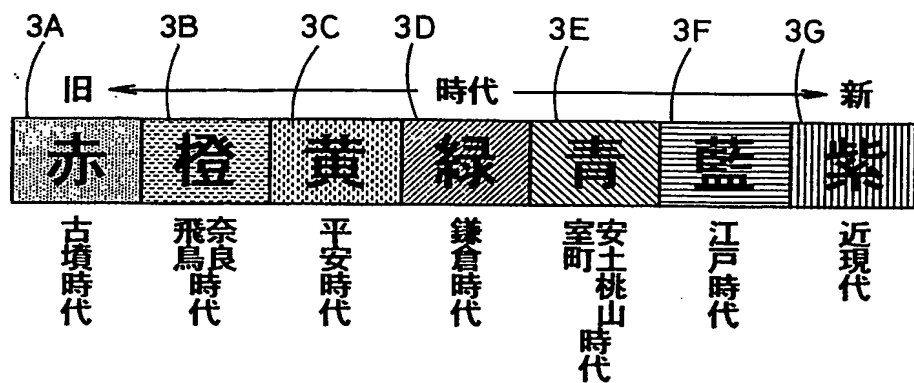
本願では、上記第1～第3実施例のほかに、次のものにも採用できる。まず、工場の製造ラインにおいては、各種作業工程順にプレート等に虹色の各順位色を割り当てて着色表示したものを当該作業工程場所に表示しておく。又、長いトンネルでは、トンネルの全長を7等分して入口側から虹色の各順位色を割り当てて、進行方向側の壁面に順次着色表示しておく。さらに、スキーのゲレンデでは、コース全長を7等分して始点側から順に虹色の各順位色を割り当てて立て看板等の標識に着色表示し、その各標識をコース側方における始点から所定距離の各位置に設置しておく。これらの場合も、現在位置

の順位色の色をすることで全体中のどのあたりに位置しているのかが一目で解る。

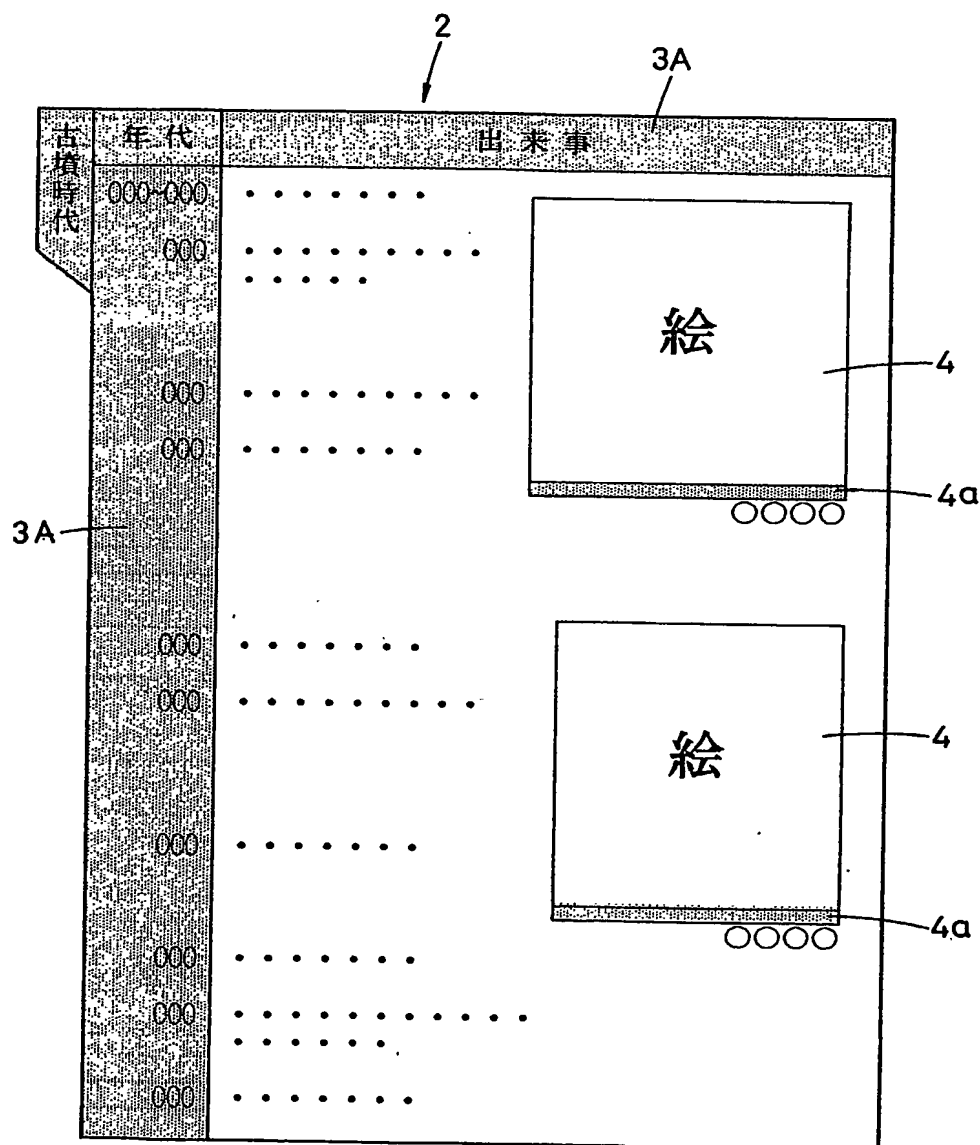
1 2

請求の範囲

1. 年代、順路、重要度、作業進捗度、あるいは距離進行度等の一連の順序付けができる順序付け対象物件における各個別順序付け部位に、虹色である「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」の各順位色のうちから、該各個別順序付け部位が属する順位に該当する順位色の色を割り当ててそれぞれ着色表示することを特徴とする順序表示付与方法。

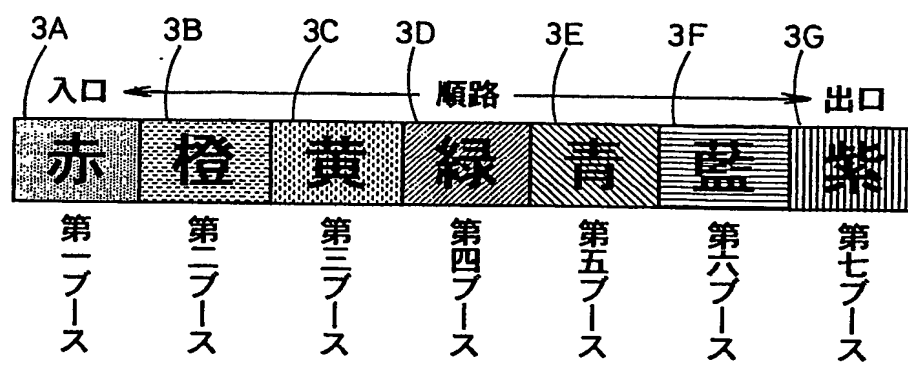


第 1 図



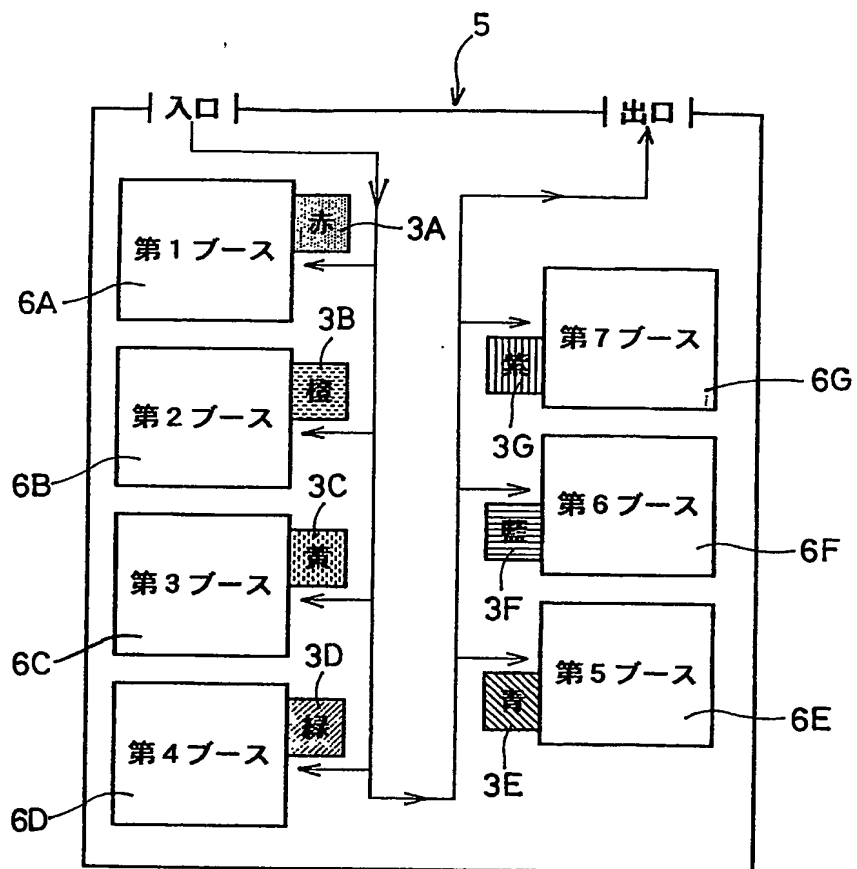
第 2 図

3/6

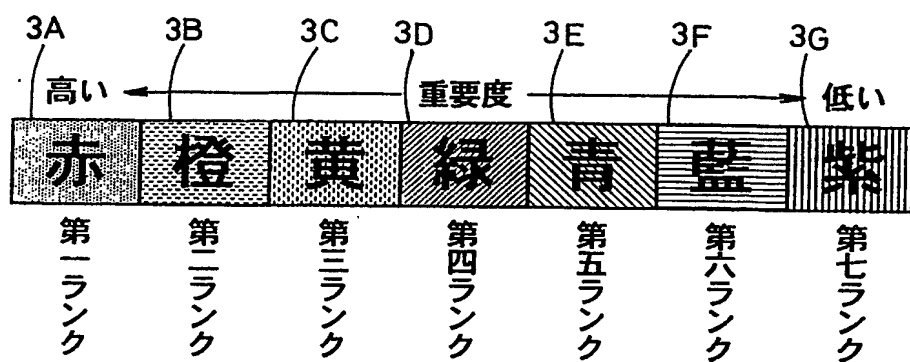


第 3 図

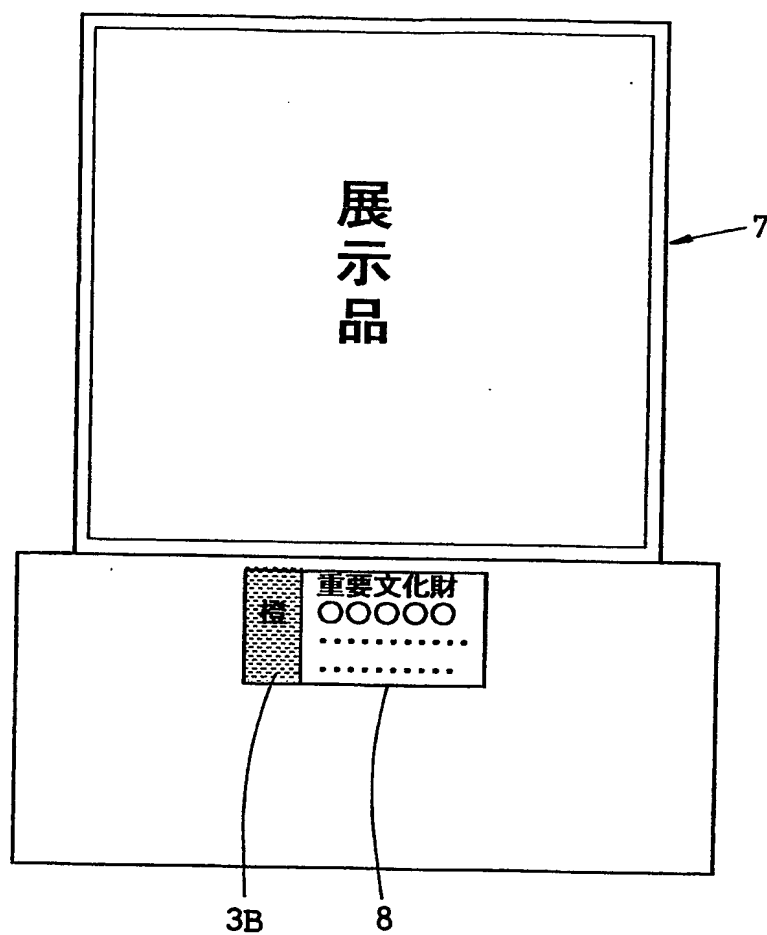
4/6



第4図



第 5 図



第 6 図

特 許 協 力 条 約

P C T

国際調査報告を作成しない旨の決定

(法第8条第2項、法施行規則第42条、第50条の3第7項)

[PCT17条(2)(a)、PCT規則13の3.1(c)、39]

| | | | | |
|---|------------------|--------------|----------------|--------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 | 09104b | 重要決定 | 発送日 (日.月.年) | 05.10.2004 |
| 国際出願番号 PCT/J P 2 0 0 4 / 0 0 9 7 5 9 | 国際出願日 (日.月.年) | 02. 07. 2004 | 優先日 (日.月.年) | 04. 11. 2003 |
| 国際特許分類 (IPC) Int. Cl. 7 G09F19/00 | | | | |
| 出願人 (氏名又は名称) 仁志 治郎 | | | | |

この出願については、法第8条第2項 (PCT17条(2)(a)) の規定に基づき、次の理由により国際調査報告を作成しない旨の決定をする。

1. ☒ この国際出願は、次の事項を内容としている。
 - a. ☐ 科学の理論
 - b. ☐ 数学の理論
 - c. ☐ 植物の品種
 - d. ☐ 動物の品種
 - e. ☐ 植物及び動物の生産の本質的に生物学的な方法 (微生物学的方法による生産物及び微生物学的方法を除く。)
 - f. ☐ 事業活動に関する計画、法則又は方法
 - g. ☐ 純粋に精神的な行為の遂行に関する計画、法則又は方法
 - h. ☐ 遊戯に関する計画、法則又は方法
 - i. ☐ 人の身体の手術又は治療による処置方法
 - j. ☐ 動物の身体の手術又は治療による処置方法
 - k. ☐ 人又は動物の身体の診断方法
 - l. ☒ 情報の単なる提示
 - m. ☐ この国際調査機関が先行技術を調査できないコンピューター・プログラム
2. ☐ この国際出願の次の部分が所定の要件を満たしていないので、有効な国際調査をすることができない。

☐ 明細書
 ☐ 請求の範囲
 ☐ 図面
3. ☐ ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書C (塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン) に定める基準を満たしていないので、有効な国際調査をすることができない。

☐ 書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。
 ☐ 磁気ディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。
4. ☐ ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を満たしていないので、有効な国際調査をすることができない。

☐ 書面によるテーブルが提出されていない。
 ☐ コンピュータ読み取り可能な形式によるテーブルが提出されていない又は所定の要件を満たしていない。
5. 附記

| | | | |
|--|---------------------------|-----|---------|
| 名称及びあて名 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 | 特許庁審査官 (権限のある職員) 秋山 斉昭 | 2 T | 9 8 1 5 |
| | 電話番号 03-3581-1101 内線 3264 | | |

PCT

DECLARATION OF NON-ESTABLISHMENT OF INTERNATIONAL SEARCH REPORT (PCT Article 17(2)(a), Rules 13ter.1(c) and 39)

| | | |
|---|--|---|
| Applicant's or agent's file reference 09104b | IMPORTANT DECLARATION | Date of mailing (day/month/year) 05 October, 2004 (05.10.04) |
| International application No. PCT/JP2004/009759 | International filing date (day/month/year) 02 July, 2004 (02.07.04) | (Earliest) Priority Date (day/month/year) 04 November, 2003 (04.11.03) |
| International Patent Classification (IPC) or both national classification and IPC Int.Cl. ⁷ G09F19/00 | | |
| Applicant Jiro NISHI | | |

This International Searching Authority hereby declares, according to Article 17(2)(a), that **no international search report will be established** on the international application for the reasons indicated below.

1. ☒ The subject matter of the international application relates to:
 - a. ☐ scientific theories.
 - b. ☐ mathematical theories.
 - c. ☐ plant varieties.
 - d. ☐ animal varieties.
 - e. ☐ essentially biological processes for the production of plants and animals, other than microbiological processes and the products of such processes.
 - f. ☐ schemes, rules or methods of doing business.
 - g. ☐ schemes, rules or methods of performing purely mental acts.
 - h. ☐ schemes, rules or methods of playing games.
 - i. ☐ methods for treatment of the human body by surgery or therapy.
 - j. ☐ methods for treatment of the animal body by surgery or therapy.
 - k. ☐ diagnostic methods practised on the human or animal body.
 - l. ☒ mere presentations of information.
 - m. ☐ computer programs for which this International Searching Authority is not equipped to search prior art.
2. ☐ The failure of the following parts of the international application to comply with prescribed requirements prevents a meaningful search from being carried out:

☐ the description
 ☐ the claims
 ☐ the drawings
3. ☐ The failure of the nucleotide and/or amino acid sequence listing to comply with the standard provided for in Annex C of the Administrative Instructions prevents a meaningful search from being carried out:

☐ the written form has not been furnished or does not comply with the standard.
 ☐ the computer readable form has not been furnished or does not comply with the standard.
4. ☐ The failure of the tables related to the nucleotide and/or amino acid sequence listing to comply with the technical requirements provided for in Annex C-bis of the Administrative Instructions prevents a meaningful search from being carried out:

☐ the written form has not been furnished.
 ☐ the computer readable form has not been furnished or does not comply with the technical requirements.
5. Further comments:

| | |
|--|--------------------|
| Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office | Authorized officer |
| Facsimile No. | Telephone No. |